



結ばれる 絆

東日本大震災は町にも町民の心にも甚大な被害をもたらしました。現在、わたしたちは町内外、日本全国からの多くの支援のもとに立ち上がり復興への道を歩んでいます。そして今もなお、震災で結ばれた絆は切れることなく固く結ばれています。今号では、町を支援し続け、わたしたちの暮らしを支える団体を紹介します。



©公益財団法人 国際開発救援財団

区長や班長を決めるため、住民と話しをするFIDR職員

公益財団法人国際開発救援財団は、仮設住宅に扇風機や掃除機、暖房器具などを提供し、被災者の生活再建に向けた活動を行ってきました。また、マイクロバスを山田町社会福祉協議会へ寄贈し、高齢者の買い物支援とともに、車内で利用者同士が歌や会話などを楽しみ、交流を深めることを目的とした「お楽しみバス・まぢづ

けえ号」の運行を支援しました。さらに、仮設住宅で顔合わせ懇談会を開催し、区長や班長決めの手伝いや自治会設立へ向けた支援を行ってきました。今後も引き続き、仮設住宅での自治会設立やイベント開催の支援を行い、住民同士が協力し合う住みやすい環境を作り、コミュニティの再構築につながる活動を展開していきます。

公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR)

団体概要

1990年に山崎製パン(株)創業者の故飯島藤十郎氏の寄付を基に発足。開発途上国の子どもの福祉を中心に支援事業を行っているほか、自然災害への緊急救援も実施している。



Save the Children
JAPAN



自らが考えた未来のまちを説明する子どもたち

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、子どもたちが集まり、まちづくりについて考える「子どもまちづくりクラブ」を創設し、活動しています。同クラブでは、町内の小学生が専門家や地域の方々と話し合いを通じて、未来の山田をテーマにマスコットキャラクターや模型などを作りながら復興に向けたまちづくりを考えてきま

した。昨年にはまちづくりプランを発表し、大人と意見交換を行い、町と県へ意見書を提出。本年2月には陸前高田市と宮城県石巻市の子どもたちとともに復興庁を訪れ、子どもの視線に立ったまちづくりをしてほしいと訴えました。5月5日には同クラブが東京都でこれまでの活動を発表し、より良いまちづくりについて考えます。

公益社団法人

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

団体概要

「子どもの権利」の実現を目指し、1919年にイギリスで創設。現在120カ国で活動。日本では1986年に設立され、2003年から子ども参加を促進するための事業を実施している。

ケア・インターナショナル・シヨナル・ジャパンは、被災者のニーズに対応し、地域の経済と結束力の再生を目的に活動しています。震災直後から避難所での炊き出し、地域新聞「希望」の発行支援、飲食店再開のための必要機材の提供支援が行われました。また、仮設住宅へ融雪剤や雪かき用のスコップなどを保管する物置を設置し、家を修

復して住んでいる在宅被災者にはテレビや炊飯器、掃除機などの家電を提供。さらに郷土芸能再開に向けての支援や、山田町社協支援愛支援センターが行う思い出写真展のカフェ・ポットやコーヒー、子どもたちが遊ぶおもちゃの提供や仮設住宅を巡回するカフェの開催支援など、町の団体と連携した支援が行われています。

公益財団法人

ケア・インターナショナル ジャパン

団体概要

母体は1945年にアメリカで設立。1987年、現在の団体の前身であるケア・ジャパンが発足し、世界各国で災害地域への緊急援助や女性・子どもに焦点を当てた活動を行っている。



仮設住宅へ地域新聞「希望」を配布する職員



ハンドマッサージに心が癒されます

みえ災害ボランティア支援センターでは、昨年4月から毎週1便のペースで「みえ発！ボラパック」というボランティアバスパックツアーを運行、これまで36便648人がボランティア活動を行いました。昨年は個人敷地内のがれき撤去・清掃や支援物資の仕分け、配布などの支援活動を展開し、町民から数多くの感謝の言葉がかけ

られました。きめ細やかな支援が行えるのは、ボランティアに参加する前に常駐するスタッフが現地状況を伝え、参加するための心構えや被災者のニーズについて、過去の参加者との話し合いや事前の講習などを徹底して行っているからです。本年度からは、ハンドマッサージや連鶴教室など、町民の心を癒す活動も進めていきます。

みえ災害ボランティア支援センター

団体概要

震災発生時にNPO法人みえ防災市民会議など6団体が参集し、三重県とともに官民協働で3日後に設立。昨年4月28日からボランティア活動が開始された。

山田町災害復興支援隊は、国の緊急雇用創出事業により100人を超える町民を雇用し、編成されました。災害特務中隊・被災者支援小隊・観光復興小隊などの全9グループで、行方不明者捜索、防犯パトロールや仮設住宅へのおかず提供をはじめ「御蔵の湯」の運営など多岐にわたり復興支援活動をしています。1

日に450人以上が利用する同仮設浴場では、入浴のほかにパワーストーン教室などのイベントも開催し、訪れる町民の疲れを癒しています。また、仮設住宅では温かい料理と飲み物を飲食しながら楽しいひとときを過ごす「週末ふれあいガーデン」を毎週開催するなど、町民の暮らしを支える活動が続けられています。

山田町災害復興支援隊

団体概要

厚生労働省の緊急雇用創出事業により町から特定非営利法人大雪りばあねっとへ事業が委託されて昨年9月に編成された。行方不明者捜索や復旧・復興支援活動を行っている。



おかずを手渡ししながらコミュニケーションをとる隊員